

ことばのうみ

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 16 2004. 7

特集 子どもと本をむすぶ



子ども図書室内風景

● 知性の旅へ

石森広美

私たちは特に意識せず、母語の日本語を日常的に使っていますが、世界に目を向けると、一つの国にいくつもの言語が存在することは珍しくありません。数百ものことばがある国もあります。ケニアの友人は、キクユ語とスワヒリ語と英語を、相手によって使い分けます。シンガポールの友人は、家族とは福建語を、中国系同士では華語を話しますが、普段は英語を使います。エクアドルの友人は、家族や同民族とは母語のケチュア語を、一歩外に出ると公用語のスペイン語を話しています。彼らは場面や相手に応じて、ことばを巧みに使い分けるのです。

十年ほど前に「世界ことばの旅」というCDブックが発売され、私はすぐさま購入しました。今も大切にしています。世界には七、〇〇〇〜一〇、〇〇〇の言語があると知られています。そのうちの八〇を紹介したこのCDブックは私を世界一周旅行へ誘います。本はいつでも私たちが知性の旅へと導いてくれます。それは、知的好奇心がある限り、続く旅なのです。

(いしもり・ひろみ 英語教師)